

集落の変化を妨げる初期の壁と対応案

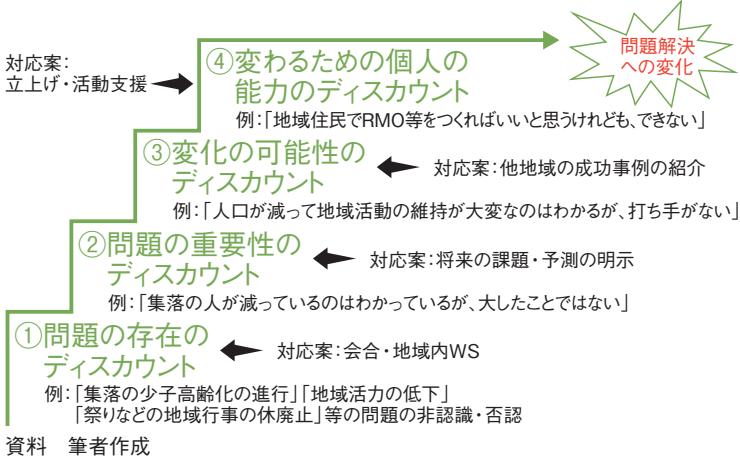
主任研究員 尾中謙治

集落や集落組織のヒアリング調査を通じて、組織集団が環境などに合わせて自ら変化することの難しさを感じる。組織目的のある企業ですら変革は課題となっており、集落はなおさらである。今後も新たな農村政策として「農山漁村発イノベーション」「農村地域づくり事業体(農村RMO)」などの変化を求める推進が行われていくが、容易には進まないであろう。筆者は集落などの変化を妨げている初期の要因として、「ディスカウント」が大きいと考えており、本稿ではそれを取り上げる。

1 ディスカウントとは

ここでのディスカウントとは、心理療法の一種である交流分析の用語である。いわゆる「商品の値引き」ではなく、「人間の存在を低くみたり、無視したりするあらゆる言動^(注)」を意味する。ディスカウントには、「存在」「重要性」「可能性」「個人の能力」の4つのレベルがある。困難を抱える状況一般にも適用可能と思われる所以、これを問題を抱えている

第1図 ディスカウントの4つのレベルと対応案



資料 筆者作成

集落を例に説明する(第1図)。

(1)問題の存在のディスカウント

集落の問題(少子高齢化の進行や活力の低下など)に気づいていないか、気づかないようにしている状態で、問題そのものをディスカウントしているレベル。

(2)問題の重要性のディスカウント

集落の問題の存在は認めて、内包している問題の重要性をディスカウントしているレベル。

(3)変化の可能性のディスカウント

集落の問題とその重要性を認めて、問題を何らかの方法で解決できるという可能性をディスカウントしているレベル。

(4)変わるために個人の能力のディスカウント

問題を解決するための、自分自身や集落内の人々の能力をディスカウントしているレベル。このレベルのときは、「できない」のではなく、「しない」だけというケースも混合しており、「できない」と「しない」を厳密に区別することが重要である。

これら4つのディスカウントのレベルにおいて、最も問題解決に遠いのは(1)であり、(1)から(4)に段階的に進んでいくにつれて、問題が解決に向かっているといえる。しかし、(4)にとどまってしまい、問題解決への変化に至らないときは、徐々に(4)から(1)に後退する可能性がある。それによって、関与している人々は、問題やその解決について「言うまい」、そして「思ふまい」「感じまい」と変化していき、(1)に落ち着いてしまうリスクがあることに留意する必要

がある。

2 ディスカウントによって発生する受動的行動

前述したディスカウントの状態にあることに、自他ともに気づくことは容易ではない。自分であれば意識を向けることで気づくこともできるが、他者がディスカウントしているかどうかを他者が直接観察することは不可能である。そこで、交流分析では基本的な了解事項である自他のディスカウントに気づくための特徴的な4つの受動的行動を紹介する。

(1)何もしない

自他ともにディスカウントし、何も変わらないというあきらめ感のなかにあり、問題解決のための行動にエネルギーを使うのではなく、行動をストップするためにエネルギーを使っている状態である。

(2)過剰適応

自分の能力をディスカウントし、自分のやりたいことではなく、他者の言うことに従い、他者を喜ばせようとする行動である。したがって、主体性をもった行動を期待することはできない。

(3)目的のない行動

問題のなかにいるという居心地の悪さを和らげるために、いらいらしたり、そわそわしたりするなどの意味のない行動である。

(4)無能または暴力

無能は、無能である振舞いやアルコールの乱用、心身の病気の発生などである。行動するエネルギーが内部に向けられたものが無能で、外部に向けられたものが暴力である。自分の問題を周囲が解決してくれることを期待して、このような行動をすると理解されている。

(注)桂戴作・杉田峰康・白井幸子(1984)『交流分析入門』チーム医療より引用。

3 ディスカウントへの対応

自他の存在や価値、能力を信じ、認めるこ^トによってディスカウントに陥ること自体は減少する。また、ディスカウントやそれによる受動的行動の存在を意識し、感知することによって、ディスカウントを防いだり脱却したりすることができる。

集落の問題解決にあたっては、ディスカウントのレベルごとに次のような対応案が考えられる。①「問題の存在」のレベルにあるときは、問題自体の気づきを促すために、集落内の会合やワークショップ(WS)開催を、②「重要性」では、問題の重要性を認識できていないので、会合などで将来の課題・予測を明示することが効果的であろう。次に、③「可能性」では、問題解決の選択肢が不足しているので、他地域の成功事例の紹介を、④「個人の能力」では、自分や集落内の人々で実現できるかどうか不安な状態にあることから、行政などによる地域組織の立上げや活動支援が有効であろう。

以上のように対処しても、集落内のすべての人々のレベルを引き上げていくのは困難であり、時間がかかる。まずはコア集団が問題解決への変化を起こすことが重要である。そのために、現時点においてコア集団の人々がとどまっているディスカウントのレベルを正確に認識し、問題をクリアしていくために、適切な対応をしていくことがコア集団のリーダーには求められる。集落をはじめとした組織集団の変化において、リーダーの役割は大きい。

<参考文献>

- ・岡野嘉宏・多田徹佑(1977)『新しい自己への出発—マネージメントのためのTA—』社会産業教育研究所
- ・スチュアート.I and V. ジョインズ(1991)『TA TODAY—最新・交流分析入門』(深沢道子監訳)実務教育出版, I. Stewart and V. Joines (1987), *TA Today : A New Introduction to Transactional Analysis*, Lifespace Publishing.

(おなか けんじ)